

掘師会 2022 年立冬会報

(日本における地下掘削の技術向上並びに継承するために設立された会)

一般社団法人掘師会

東京都練馬区大泉学園町

理事長 内山 剛

1. 理事長挨拶



2020 年コロナ禍、志を持った皆様と一般社団法人掘師会を立ち上げることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

オンライン意見交換会では多くの御提言をいただき感謝しております。

引き続き皆様とともに、ボーリング技術のスキルアップを図っていきます。

今後とも宜しく願い申し上げます。

内山 剛

2. 会議報告

開催	2022 年 9～11 月	場所	オンライン	参加者	会員及び地質調査事業者様
概要	以下の情報交換及び議論が交わされた。 ・公共事業／民間事業の違い、それぞれに求められる対応力について。 ・発注事業者要請への対応方法について				

3. 本年・来年に向けての活動

コロナ禍、活動が制限されている状態のため、当面はオンライン会議による情報交換を行っていく。活動制限が解除された段階で、掘師会として勉強会を実施していきたい。(2022 年 1 月より変更なし)

4. スキルアップ勉強会

(1) さく井技術勉強会

内容 : 「さく井技術とさく井技術を応用した事例 (仮)」勉強会

開催日程 : 2023 年 4 月

場所 : 東京

講師 : 株式会社日さく技術開発部長

対象 : 掘師会会員の希望者

費用 : 無料 (掘師会が負担)

(2) 技術士 1 次試験・2 次試験勉強会

内容 : 技術士応用理学部門 (地質) 1 次試験・2 次試験勉強会

開催日程 : 2022 年 12 月から毎月開催予定

場所 : 東京 (ウチヤマ地質工業内)

講師 : 適宜設定

対象 : 掘師会会員の希望者

費用 : 無料 (掘師会が負担)

5. トピックス

始まっている建設現場の遠隔臨場。ポーリングにも遠隔臨場。(再考)

掘師会 2022 年新春会報 (2022 年 2 月)「始まっている建設現場の遠隔臨場。ポーリングにも遠隔臨場。」で報告した遠隔臨場への準備対応について考えていきたい。

1. 公共工事の遠隔臨場の導入

2022 年 3 月国土交通省関東地方整備局の発表によると、『2022 年 6 月から工事発注規模が 1 億円以上の工事は、原則、発注者指定型により全て遠隔臨場を実施する』こととなった。公共事業で遠隔臨場が本格化する中、効率的な遠隔臨場が始まれば、1 億円未満の公共工事や民間事業でも遠隔臨場は一般化するであろう。建設関連事業者も遠隔臨場への準備を急がざるを得ない状況とも言える。

2. 遠隔臨場の留意点

(1) 遠隔臨場

あらためて遠隔臨場を抑えておきたい。遠隔臨場は、ウェアラブルカメラで現場を動画撮影し、遠隔地でリアルタイムに現場状況を確認するものである。

(2) 動画撮影上の留意点

2022 年 3 月国土交通省大臣官房技術調査課の「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領 5. 留意事項」によると、作業員のプライバシーを侵害する音声配信される場合があるためこれに留意すること、受注者は施工現場外ができる限り映り込まないように留意すること、公的ではない建物の内部や人物が意図せず映り込んでしまった場合は記録映像から人物等を特定できないようにすること等が挙げられている。

3. 遠隔臨場の準備

遠隔臨場を行う場合、一定の動画撮影技術や動画加工技術が求められる。国土交通省が挙げている留意点から次表の通り、求められるスキルをまとめた。これらから考えると、現場でのカメラ設置場所への配慮だけではなく、音声処理や画像処理といった動画映像編集スキルが求められる。遠隔臨場に接する可能性がある事業者は、動画映像編集スキルを高めておく必要がある。

<表：遠隔臨場に求められるスキルと対応 (例) >

項目	対応 (例)
①作業員のプライバシーを保護する音声対策	音声を特定できないような音声処理
②施工現場以外の建物等ができる限り映りこまないようにすること	適切な位置にカメラ設置を設置すること
③意図せず人物等が映りこんでしまった場合、記録映像から人物を特定できないよう必要な措置をとること	人物を特定できないような画像処理

出所：項目は国土交通省「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領」、内容(例)は筆者作成

執筆：2022 年 12 月 1 日 小島康 (中小企業診断士)

編集：掘師会事務局 (合同会社コジマ)